

## ヴェッキョ橋

## Bridges of the World

イタリア・フィレンツェ



シエラレオネ・2009年発行

ヴェッキョは「古い」という意味ですが、その名の通りフィレンツェのアルノ川の橋では最も古いものです。橋上に店舗付き住宅が建ち並ぶ、いわゆる「家橋」として現存するものでは世界最古の橋でしょう。

橋の歴史は古代ローマ時代に遡ります。ローマへ通じるカッシア街道の町への入口として架けられました。古くは木橋でしたが、1177年に洪水で流された後、5連の石造アーチ橋になりました。橋上には教会や橋の管理者の住宅と塔、商店などが建てられ、しだいに店舗が増えていきました。1333年の洪水で流された橋に代わって現在の3径間の石造アーチ橋が建設されました。設計はタッデオ・ガッディによるとされていますが、他の建築家とする説もあります。橋上の建物も石造で、古くは雑貨、食料品店や鍛冶屋なども営業していました。

橋の長さはおよそ95m、3連の石造アーチの中央スパンは30m、両側のスパンは27mです。アーチの頂点の高さ(ライズ)は4.4mと3.5mで、スパンとの比は1:7程度とかなり扁平なアーチになっています。

橋の上流側、すなわち東側の建物の上に回廊が載せられています。これは、16世紀半ばに当時フィレンツェの政治的実権を握っていたメディチ家のコジモ1世が、建築家G. ヴァザーリに依頼して、北側のヴェッキョ宮殿から橋の上を歩いてピッティ宮殿までを安全に通行できるように回廊を建設したものです。回廊が建設された頃は橋上では多くの食肉店が営業していましたが、1593年になって悪臭を嫌った当時のメディチ家の当主が食肉店の営業権を金銀細工組合に売り渡したことから、橋上の店舗は貴金属店などに変わりました。

イタリア・ルネサンス期の代表的な美術品や建築が残るフィレンツェは、世界的にも有数の観光地になっていますが、幾度かの洪水被害にも耐えて中世の姿を伝えるヴェッキョ橋も大勢の観光客を集めています。中央には店がなく、川面を見渡せるのもこの橋の魅力を高めています。その広場の中にある胸像は、16世紀に多くの作品を残した「フィレンツェの金銀細工の父」と呼ばれるB. チェッリーニを顕彰したものです。



撮影：松村 博